

テーマ「感染症対策を踏まえた働き方改革」

視点１ 行政との連携や働きかけ

- ・今年度より本市が導入した「２学期制」が感染症対策を踏まえた教職員の負担軽減に大きく寄与
- ・２学期制導入による授業時数の確保（夏季休業直前まで通常授業ができ、臨時休校や分散登校に備えて時数確保）
- ・始業式、終業式等の学校行事の回数削減による授業時数の確保
- ・７月の成績処理が８・９月に移行。引退する３年生の部活動の指導に集中でき、夏季休業中の勤務時間内で成績処理を実施（業務の平準化に役立つ）
- ・令和３年度の２学期制実施に向けて、市Ｐ連、市教委、校長会、教頭会、教務主任会が連携し準備、保護者への連絡文書配付等の対応を統一
- ・感染症対策による特休等（濃厚接触者該当職員含む）取得時に、自宅で勤務できるシステム導入への市教育委員会の支援
- ・市教育委員会と連携した、オンライン授業等実施に向けた家庭におけるWi-Fi環境等の調査
- ・ＩＣＴ支援員によるタブレット端末導入における教職員・生徒へのサポート
- ・ＩＣＴ支援員によるタブレット端末の効果的な活用方法を研修し、授業準備、会議や研修時間が短縮
- ・緊急事態宣言中等におけるテレワークの推進が課題（県立学校に準じた取組）

視点２ 自校での取組

- ・中学校区における共通の欠席・連絡フォーム（アプリ、Teams）の活用
- ・部活動における外部指導者の活用
- ・タブレットを活用した校務の効率化（作品提出、成績処理にも活用）
- ・オンライン授業で向上したタブレット端末利用のスキルを対面授業で活用
- ・３密を防ぐ、Zoom、Teams等を活用したオンライン職員会議、職員への連絡伝達

視点３ 次年度に取り組みたいテーマ

- ・部活動の適正数設置に向けた取組
- ・次年度入学生徒への部活動事前アンケートの実施
- ・現在入部している生徒、保護者の意見を把握 → 県の基準も踏まえた上で、慎重に統廃合を検討
- ・地域における部活動の外部指導者の確保が困難
- ・地域人材の中で、継続して指導できる部活動指導の適任者が見つからない状況
- ・学校単位で探していても部活動指導の確保が困難
- ・どのように進めていったらよいか難しい状況、市教委等と連携して進めていく体制づくりが必要